

「オイ今日等の日に、うつかり侍に相手になりなや、何んな騒動が起るや解らんで」

「コリヤ町人」

「ヘエ……、どうぞ命ばかりはお助け」

「大勢が馳けるは何事ぢや」

「オイまつて、尋ねてはるね、かた／＼もち」

「何ぢや、かた／＼もち、何ぢやかた／＼餅とは」

「違ふ、かた／＼、そのかた／＼もち」

「かた／＼もち、敵討と申すのか」

「その通り、かた／＼もち」

「平野氏、敵討とは耳寄な話、して討たるゝ者は何者ぢや」

「おほきな笠を着て、黒い煙がもへて、フホウと」

「其は何ぢや、其方の申す事は相解らん、何大きな笠で、面體を包み居るか、してお討ちなさる御方は、如何様な方か」

「兄弟の、順禮」

「ナニ、兄弟の順禮とな、平野氏、先則の御仁では御座らぬか」

「コリヤ町人、兄弟の順禮と申すか、一人は二十一、今一人は十八九、色白にして鼻筋通り」

「目の二ツ有る」

「馬鹿を申すな、中村氏、先刻の御兄弟の衆に相違ない、敵に御出合ひ召されしか、言葉の助太刀を致すと申した、武士の言葉に二言はない、町人能くぞ教へた、茶店の婆、水を一杯呉れ、中村氏、用意召され」

「心得申した」

「お續き召され」

馳けて参ります、此方は長い刀を振り廻して、教へて貰ふた立廻りの同じ手許り、

「オイ、寅はん、一遍一服しよか、大分辛度なつてきた、定はんは何うしてるのんやろ」

「サア、モウ出て来て呉れんと困るがな、同じ事をしてるね」

「モウ一遍遣つて見よ、其内に定はんが来るやろう」

「喜いやんは面白いか知らんが、私はモウ辛度いね」

と居る處へ、兩人の侍が遣つて来た。

「ヤア 先程の御兄弟衆ぢや、御兄弟の方々我々が助太刀に参つた、心臆せず、本望を成就られよ」
「フワイ……、夫れ来たで」